

は嘯くもあれはつかみあふて居るのもある、然るに男女多くの職員は顔を揃へて居る計りで、少しも制さない對岸の火事もたゞならぬのです、局外者なる私何んとか注意を致そふかと思ふ位でありました、演説がすむ、來賓が起つ、生徒らは蜘蛛の子を散らす様に勝手に走り出すと申有様、悪口の様ですが、眞實の談、何とか此弊風を治療致す良薬もがなと、志ある者はより／＼相談も致し、青年會とか有志會とか申す組織は致して有ります、中々むづかしいものです、かゝる所に生長致す兒童の不憫さは格別なものです、上知と下愚は移らずと孔子も申されましたが、普通の者は是非郷里の悪習に染ります、私はつく／＼社會教育と申事の必要を悟りました。

(以下次號)

佛國婦人の夜業

佛國に於ては、近來婦人の夜業盛に行はれて將來恐るべき結果を生ぜんとする虞あり、此等の婦人は睡眠時間不足なるより、小兒の養育法不完全に陥り易し、同國にては十餘年前に、法律を以て婦人の夜間労働を禁じたるが、工業の種類に依りては例外を設けたり、然るに今は此例外頗る廣き範圍に行はるゝに至りたるなり、晝間はクレシユ(小兒代育所)あるも、夜間は之を閉ざしあるを以て、婦人の労働中小兒は實に無慘なる状態に在るものとす、目下此労働を禁止せんがため、盛んなる運動ある由なり。

(六合雜誌)

會食中の談話

英國の十九世紀雜誌に於て、フレデリツキ、ハリ

ン夫人は、佛國人の食卓に於ける風習を論じて曰く、佛國に於ては、人を集まりて會食するとき、吾等に異なりたる風習あり、例へ其人數は八九人の小會にても、談話は必ず全躰の人に對して爲すを常とし、隣席の人と對談を爲すが如きは、無作法なることなりと認めらる、故に一般に對する談話は食鹽の如く、麵包の如く、葡萄酒の如く、共通のものにして、其談話は頓智と善意とに富み、極めて爽快に且つ興味を有し、聞くものをして覺えず心身を興奮せしむ、又佛人は巧みに談話することを好み、自國語を以て社交上最も美なる且つ最も便なるものとなすが如し、蓋し之れ正當の見解にして、佛人は之が爲に發音に注意し、言語を選択し、熟練なる且つ纖麗なる談話に努むるなり、之れ吾等の大に學ぶべき所なりと。(同上)

婦人と齒

婦人は比較的男子よりも齒を破壊し若しくは齒を病むもの多く殊に妊娠の後は齒牙に送る營養分がへりますから齒痛を患るものが多いので子兒に乳を吞ませる時季も又同じ又外國に比するに日本の小兒の齒を患るもの多し主として其の母親の不注意に基くもので要するに齒の掃除の行届かざるに因るものにて彼のミンツバの如き成長の後有害の原因となるものもあまり注意を引くとなきは誠に嘆息の至りなり。

(婦人衛生雜誌)

